

第二章 研究2年目の取組

1 研究教科の拡大と担当者

学力向上推進委員		
	平成28年度	平成29年度
国語科	垣見優太	垣見優太 小野敬子
地歴公民科	****	前野亮太
数学科	岩田健明	大石 剛 岩田健明
理科	****	丹後麻衣
英語科	杉山美月	荻窪雄太 杉山美月

2 教科ごとの研修会実施状況

(1) 国語科

ア 第1回（高等学校初任者研修と合同開催）

①日時 平成29年9月12日（火）午前10時から午後4時まで

②場所 会議室・教室

③参加者 本校 3名 校長、国語科2名（初任者、研究推進教諭）

来校者 愛知県立加茂丘高等学校長 河合龍二 様

愛知県立岡崎西高等学校教頭 加藤真理子 様

愛知淑徳大学創造表現学部教授 永井聖剛 様

平成29年度高等学校国語C班初任者13名

④内容 平成29年度高等学校国語C班初任者13名が来校し、研究授業と示範授

業を行った。第4限は本校初任者が研究授業を行い、第5限は昨年度から研究を推進している本校教諭が示範授業を行うことから、教科支援員である永井教授を招いて、研究授業と示範授業の振り返りと永井教授による協同学習のポイントについて助言を受けた。教科の指導校長であり、また、平成26、27年度に同様の研究を行っていた愛知県立加茂丘高等学校長の提案を受けて実施した。



国語科初任者の研究協議会

イ 第2回

①日時 平成29年9月15日（金）午前9時45分から午前11時30分まで

②場所 会議室

③参加者 本校 国語科教諭6名

来校者 愛知淑徳大学創造表現学部教授 永井聖剛 様

愛知県教育委員会高等学校教育課指導主事 伊藤君江 様

- ④内容 昨年からの取り組みの振り返りを行うことと、12日に行われた研究授業や示範授業の改善点について協議を行った。

(2) 英語科

ア 第1回

①日時 平成29年9月15日(金) 午前10時45分から午後0時30分まで

②場所 会議室

③参加者 本校 英語科教諭6名

来校者 日本福祉大学国際福祉開発学部教授 米津明彦 様

愛知県教育委員会高等学校教育課指導主事 伊藤君江 様

- ④内容 京都市立堀川高等学校の視察報告を行った。また、昨年からの取り組みの振り返りと今後の方向性を検討した。

イ 第2回

①日時 平成29年11月6日(月) 午後1時30分から午後2時20分まで

②場所 各教室, 会議室

③参加者 本校 英語科教諭7名

来校者 日本福祉大学国際福祉開発学部教授 米津明彦 様

- ④内容 文部科学省の視察に合わせて実施した研究授業の後に教科会を実施, 教科支援員と意見交換を行った。

(3) 数学科

ア 第1回

①日時 平成29年10月5日(木) 午前8時45分から午前11時30分まで

②場所 会議室・教室

③参加者 本校 数学科教諭6名

来校者 愛知教育大学准教授 青山和裕 様

愛知県教育委員会高等学校教育課指導主事 伊藤君江 様

- ④内容 青山准教授と伊藤指導主事に授業参観を依頼し, その後の教科の研修会において, 昨年からの取り組みの振り返りを行い, 課題や疑問点を出しながら数学科全体として研究の方向性を検討した。

3 校内職員研修の実施

年度が替わり, 6名の転入者と3名の初任者を迎えることとなった。再任用教諭や臨時的任用教諭, 期限付教諭, 任期付任用教諭を含めると15名が新しく本校に勤めることになるため, 協同学習を導入した授業改善の方法等を学ぶ機会を設けた。

(1) 第1回校内研修

ア 日時 平成29年8月21日(月) 午後1時から午後4時30分まで

イ 場所 会議室

ウ 目的 協同学習の基本的理念と評価方法について理解を図る。

研究2年目の取り組みにおける方向性を確認し, 職員の共通理解を図る。

- エ 講師 南山大学人文学部心理人間学科教授 石田裕久 様
オ 内容 協同学習の概要について知る機会とした。(ワークショップを含む)
協同学習における評価方法の講義を受けた。

カ 参加者 28名

(2) 第2回校内研修

- ア 日時 平成29年10月12日(木) 午後2時から午後3時30分まで
イ 場所 会議室
ウ 目的 先行研究を行った学校の取り組みと成果を知ること、本校の研究に活かせる研修会とする。

エ 講師 愛知県立加茂丘高等学校
教諭 鈴木和浩 様

オ 内容 「主体的・対話的で深い学びを推進するために」と題した講義とグループワークを実施した。

カ 参加者 33名



第1回職員研修



第2回職員研修

4 研究先進校の視察

県内外で授業改善や主体的な学びに取り組んでいる学校を訪問することで新たな知見を得られるようにした。訪問者のみならず、教科内や他教科の教員に還元できるようにした。

(1) 県外視察

ア 平成29年9月12日(火)

広島県立可部高等学校 教諭2名(数学科・理科)

身近な話題や道具で、より意欲的な表現活動ができることを英語科2年生で実施している。化学では、身近なものを素材にした実験で実社会・実生活と化学の関連を伝える取り組みを実践している。

イ 平成29年9月14日(木)

京都市立堀川高等学校

教諭2名(英語科)

汎用性が高く、短時間で実施できるペアワ

ークからグループワーク・発表まで、多様な活動方法を普段の授業の中で計画



県外学校視察

的に取り入れている。生徒の学力レベルは高いが、学ぶところが多い。

ウ 平成 29 年 10 月 13 日（金）

岐阜県立岐山高等学校 教頭 1 名（数学科）

普通科の他に理数科が設けられており、理系に強い高校である。また、平成 22 年まで文部科学省からスーパーサイエンススクールの指定を受けていた。教育課程を組織的に営むカリキュラムマネジメントの第一人者である岐阜大学准教授田村知子氏が研究に加わり学校改革を行った。

エ 平成 29 年 10 月 30 日（月）

兵庫県立太子高等学校 教諭 2 名（地歴公民科・保健体育科）

総合学科の学校である。コミュニケーション能力を高め、社会に適応していく生徒を育てていくことを目標に、「つながり」を大切にしている。教員からの一方的な講義形式の授業ではなく、生徒どうしの関わりの中で、能動的な学習参加が実現されている。生徒たちは、書く・話す・発表するなどの言語活動を通して、「確かな学力」を身に付けている。

(2) 県内視察

ア 平成 29 年 11 月 14 日（火）

愛知県立加茂丘高等学校 教諭 2 名（国語科）

イ 平成 29 年 11 月 15 日（水）

同 教諭 2 名（数学科，英語科）

ウ 平成 29 年 11 月 14 日（火）

愛知県立小牧南高等学校 教諭 4 名（国語科，地歴公民科）

県立高等学校教育課程研究指定校事業中間発表会

エ 平成 29 年 11 月 15 日（水）

愛知県立幸田高等学校 教諭 1 名（数学科）

県立学校課題研究指定校事業（数学）中間発表会

(3) 視察の還元

視察後，研究推進のヒントとなる事項や本校への還元ポイントを簡潔に記載した報告書を作成し，共有データとして閲覧できるようにするとともに職員に配付した。

5 研究発表会への参加

(1) 全国学校体育研究大会和歌山大会

ア 期日 平成 29 年 11 月 9 日（木）～10 日（金）

イ 参加者 保健体育科 1 名

ウ 場所 和歌山県民文化会館，和歌山県立桐蔭高等学校

エ 主題 「主体的・対話的で深い学びを通して自ら考え工夫していく力を身に付ける体育・保健体育学習」～自らが進んで運動（遊び）に取り組み，仲間とともに高め合う姿を求めて～

(2) 全国高等学校国語教育研究大会兵庫大会

ア 期日 平成 29 年 11 月 16 日（木）～17 日（金）

- イ 参加者 国語科 2名
- ウ 場所 神戸芸術センター，神戸市立六甲アイランド高等学校，神戸山手女子高等学校
- エ 主題 「国語教師のアクティブ・ラーニング」ー主体的・対話的で深い学びの実現ー

(3) 全国英語教育研究大会（全英連新潟大会）

- ア 期日 平成 29 年 11 月 22 日(水)・23 日(木)
- イ 参加者 英語科 1名
- ウ 場所 りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館
- エ 主題 「新潟から世界へ！新潟から未来へ！」～交流・喜び・成長あふれる英語教育の推進～

6 教育カリキュラムの作成

1年間あるいは3年間の学習活動を学校全体や学年の目標に照らし合わせながら、各教科・科目で身に付けさせたい力，そのための学習内容や授業スタイルを含めた年間カリキュラム表の作成について検討した。

今年度は，第1学年の普通科，調理国際科，生活デザイン科をモデルとして，教員間で他教科の授業内容も把握でき，教科横断的学習や協同学習に必要な資料として役立てることができるものを作成した。内容をさらに検討しながら来年度は第2学年と第3学年を作成し，特に新入生にとって分かり易い3年間の教育カリキュラムを完成させる予定である。

7 対外的な活動

調理国際科と生活デザイン科を併設することから，昨年度に引き続き専門学科で学んだ知識・技能を発揮することを通して，本校の教育目標である「社会に貢献する生徒の育成」を目的に取り組んだ。また，特別活動部は近隣異校種や近くの北部地域交流センターとの交流機会を継続し，生徒の活躍機会を持つこととした。